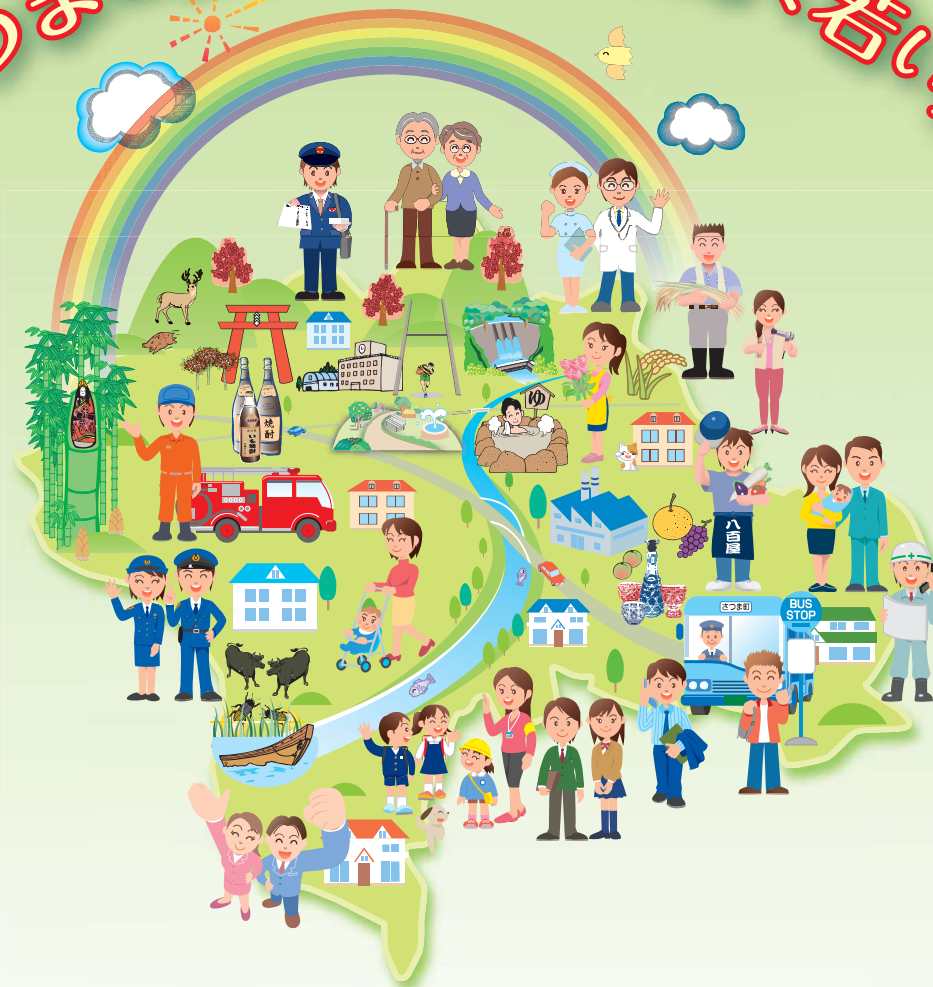


さつま町 まち・ひと・しごとと創生総合戦略

「さつまの挑戦、未来を拓く若い力」



平成27年12月

 鹿児島県 さつま町

【目次】

I	総合戦略の位置づけ	1
II	総合戦略の目標	2
III	総合戦略の推進に向けて	3
IV	総合戦略策定の流れ	4
V	5つの基本目標(総合戦略の樹)	5
VI	施策の概要	6
VII	成果指標	7
VIII	事業の概要	8

I 総合戦略の位置づけ

1. 国の総合戦略との関係

国が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方や政策5原則、4つの基本目標に基づき、人口減少や経済規模の縮小など課題克服に向け、本町の強みを活かした戦略を策定、推進することで、「まち・ひと・しごと」の創生と好循環の確立を目指します。

■「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方と政策5原則（抜粋）

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方

人口減少と地域経済縮小の克服

- 本格的な人口減少時代の到来、地方と東京圏の経済格差による人口の一極集中が加速⇒東京の一極集中を是正する。
- 地域経済の縮小により、人口の一極集中と地方人口減少に拍車がかかる⇒若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。
- 地方における負のスパイラルの解消、人口減少を克服する⇒地域の特性に即して地域課題を解決する。

まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

- 地域経済の活性化、産業の高付加価値等による「しごとの創生」
- 地方就労の促進や移住定住促進等による「ひとの創生」
- 安心できる暮らしの確保や都市のコンパクト化、広域連携による「まちの創生」

「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

自立性：構造的な問題に対処し、地方公共団体等の自立につながるようにする。

将来性：地方が自立的かつ主体的に、前向きに取り組むことを支援する施策に重点を置く。

地域性：各地域の実態に合った施策を支援することとし、各地域は客観的データに基づき実状分析や将来予測を行い、「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するとともに、同戦略に沿った施策を実施できる枠組みを整備する。

直接性：限られた財源や予算の中で、最大限の成果を上げるため、施策を集中的に実施する。住民代表・産官学金労の連携を促すことにより、政策の効果をより高める工夫を行う。

結果重視：明確なPDCAメカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。

2. 「さつま町総合振興計画」との関係

第1次「さつま町総合振興計画」については、計画期間が本年度（平成27年度）で終了しますが、本「総合戦略」は、人口減少克服・地方創生を目的に策定するものであり、本町の総合的な振興・発展などを目的として、第2次「さつま町総合振興計画」の策定にも取り組んでいます。

なお、目的が共通する施策については、両計画間の整合性を図るとともに、効率的な運営を行うことにより、「総合振興計画」と「総合戦略」を一体的に推進することで、大きな相乗効果を生み出していきます。

Ⅱ 総合戦略の目標

1. 人口目標

総合戦略では「さつま町 人口ビジョン」での将来の人口推計結果を踏まえ、2060年における人口を1.5万人とすることを目標とします。

本町の人口目標：1.5万人（2060年）

2. 5つの基本目標

本町は、人口ビジョンでも示したとおり、急速に少子高齢化が進展しており、上記の人口目標を達成するためには、「出生率の向上」等による自然減を抑制するだけでなく、「魅力ある多様な就業機会の創出（しごと創生）」や「安心して生活できる地域社会の形成（まち創生）」に取り組んでいく必要があります。

そこで、国の4つの基本目標も踏まえ、

- I 若い世代が芽吹く「さつま町」で産み、育てる
- II 地域の幹（みき）となる産業を育む「さつま町」で働く
- III 人々がふれあい、にぎわい、観光交流の花咲く「さつま町」に住む
- IV こころ豊かな成熟した「さつま町」で学び、暮らす
- V 未来へはばたく「さつま町」を創る

の5つの基本目標を定め、戦略を推進していきます。

Ⅲ 総合戦略の推進に向けて

1. 推進の考え方

総合戦略を着実に推進していくためには、行政だけでなく、住民や企業、学校、金融機関など“産官学金労言”が積極的に連携し、相互の共通認識のもと、自らの役割を果たしながら、「オールさつま」で戦略の施策に取り組んでいく必要があります。

そのため、「総合戦略コーディネーター」を設置し、各施策の関係者間の連携・情報共有を推進することで、施策の縦横断的な広がりを促し、各施策を効果的かつ効率的に実施していくことで、戦略の実効性を高めます。

2. 戦略の検証・改善

総合戦略においては、その効果を検証し、改善を図っていくため、各基本目標の“成果指標”を掲げるとともに、施策ごとに“重要業績評価指標（※1 KPI）”を設定し、これらの数値目標に基づき、推進委員会(仮称)を設置し、施策の効果を客観的に検証、改善を行っていく仕組み（※2PDCA サイクル）を構築しながら、戦略を推進します。

※1 KPI : Key Performance Indicator ~ 各施策の達成度を図る指標

※2 PDCA サイクル : 業務管理手法の一つで、計画 (Plan) → 実行 (do) → 評価 (check) → 改善 (act) という

4段階の活動を繰り返し行うことで、継続的に業務を改善していく手法



IV 総合戦略策定の流れ

さつま町の状況

人口減少・高齢化の進行

2.4万人（2010年）
⇒ 1.1万人（2060年）
高齢化率：35.4%
⇒ 40.7%

死亡数が出生数を上回る “自然減”の発生

自然減
▲261人（2013年）

若者を主とした人口流出

高校・大学進学等により
「15～19歳」人口が
7割に減少（2010年）

産業規模の縮小

企業数
1,027社（2009年）
⇒ 951社（2012年）

人口目標

1,5万人（2060年）
を目指す。

総合戦略の推進体制

①産官学金労言の連携による「オールさつま」の推進体制

⇒ 産：地元企業 など 官：町、観光特産品協会 学：薩摩中央高等学校 など
金：地元金融機関 労：ハローワークなど 言：地元メディア など

②戦略策定時より地元メディア関係者が参画

⇒ 総合戦略における情報発信力を強化

③総合戦略コーディネーターの設置

⇒ 事業の有機的な連携を図ることによる戦略の実効性の向上 など

推進体制の強化

人口減少克服に向けた
攻めの総合戦略

魅力的な地域資源
“町の強み”活用

地域資源

「知る人ぞ、知る」美肌湯郷
「ほたるの里」と呼ばれる 清流
優雅な刻を過ごす ホタル舟
清流に育まれた 美味・美食
切子・和紙など 美しい工芸品
竹林が生い茂る かぐや姫の里
地域がかがやく 公民館活動

さつま町

まち・ひと・しごと創生総合戦略

の策定

5つの基本目標

- I 若い世代が芽吹く「さつま町」で産み、育てる
- II 地域の幹（みき）となる産業を育む「さつま町」で働く
- III 人々がふれあい、にぎわい、観光交流の花咲く「さつま町」に住む
- IV こころ豊かな成熟した「さつま町」で学び、暮らす
- V 未来へはばたく「さつま町」を創る

国の4つの基本目標

- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 地方における安定した雇用を創出する
- 地方への新しい人の流れをつくる
- 時代に合った地域をつくり安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する

期待される効果

出産・子育て環境の充実

出逢いの場の創出

- ◎合計特殊出生率の向上
- ◎地域の人口増（自然増）

地元産業の活性化

- ◎地域の経済規模拡大
- ◎若者の雇用創出

地域のにぎわい創出

観光産業の振興

- ◎交流人口の増加
- ◎移住・定住人口の増加

地域活動の活性化

共生協働の意識向上

- ◎地域の課題解決
- ◎住民満足度の向上

PDCAによる
取組の見直し

V 5つの基本目標(総合戦略の樹)

I 若い世代が芽吹く

「さつま町」で産み、育てる

結婚・出産・子育てのしやすい環境を自治体だけではなく、企業や住民など地域全体で支えていく仕組みづくりなどを行うことで、若い世代が安心して生活ができるよう「オールさつま」で取り組み、子育てを支援します。

V 未来へはばたく「さつま町」を創る
総合戦略の推進による魅力あるまちの継承

出逢いから結婚・出産までの
応援システムの構築

イメージ戦略の実施による
観光ブランド化の推進

オールさつまで
取り組む子育て支援

川内川を活かした
新たな観光需要の創出

包括的支援体制の構築による
移住・定住の促進

III 人々がふれあい、にぎわい、 観光交流の花咲く「さつま町」に住む

観光や移住の推進において、イメージ戦略の実施などにより、人を惹きつける「花」のように、町の魅力を磨き効果的に発信することで、交流人口や定住人口の増加による町のにぎわいを創出します。

II 地域の幹(みき)となる

産業を育む「さつま町」で働く

魅力ある地域資源を糧として、農林畜産業を中心に町の基幹産業を育成するとともに、商工業による6次産業化など幹から新たな産業が生まれ、枝葉のように生い茂るよう、地域全体で町の産業を強くたく育てます。

「さつま」の
農業ビジネスプロジェクト

地理的優位性を活かした
新たな交流・定住圏の構築

豊富な「竹」資源を活用した
産業の活性化

安心して暮らせる地域づくり
の充実と小さな拠点の形成

ものづくりをはじめとする
商工業の活性化

IV ころ豊かな成熟した 「さつま町」で学び、暮らす

生涯にわたり学びを深めることで、みんなが自分らしい暮らしができるように、地域全体で思いやり、支え合う体制づくりを推進するとともに、住民参画による地域づくりの充実と地域間のネットワークの構築による小さな拠点の形成を推進します。

魅力的な地域資源

美肌温泉郷

清流

豊富な農産物

竹資源

産 官 学 金 労 言
「オールさつま」
での事業推進

「薩摩のさつま」ブランド

かぐや姫の里

美しい工芸品

活発な公民館活動

VI 施策の概要

I 若い世代が芽吹く「さつま町」で産み、育てる

1 出逢いから結婚・出産までの応援システムの構築

- (1) 地域・企業・事業者間での出逢いの場の創出
- (2) いのちを育む教育と産前・産後ケアの体制づくり

2 オールさつまで取り組む子育て支援

- (1) 子育て世代を応援する切れ目のない支援サービス
- (2) オールさつまで子供を育てる環境づくり



II 地域の幹（みき）となる産業を育む「さつま町」で働く

1 「さつま」の農業ビジネスプロジェクト

- (1) 地産地消の推進と新たなビジネスの展開
- (2) まちぐるみによる6次産業化の促進
- (3) 「薩摩のさつま」ブランド戦略の積極的な展開
- (4) 地域農業人材の確保・育成

2 豊富な「竹」資源を活用した産業の活性化

- (1) 竹林整備による安定供給体制の構築
- (2) 需要拡大に向けた流通体制の構築

3 ものづくりをはじめとする商工業の活性化

- (1) ものづくり関連企業の誘致、集積による産業基盤強化及び魅力向上
- (2) 地域性・独自性に長けた魅力ある商業の振興
- (3) 創業支援及び担い手の確保



V 未来へはばたく「さつま町」を創る

1 総合戦略の推進による魅力あるまちの継承

- (1) 総合戦略をコーディネートし、事業の有機的な連携を図ることによる戦略の実効性の向上
- (2) 資源の効率的な運用に配慮するとともに、民間活力の導入を積極的に推進することによる事業の継続性の向上
- (3) 戦略を推進するなかで、事業の担い手、地域のリーダーを育成することによる次世代に向けた人財の確保

III 人々がふれあい、にぎわい、観光交流の花咲く「さつま町」に住む

1 イメージ戦略の実施による観光ブランド化の推進

- (1) 「美」をキーワードとするイメージ戦略の実施
- (2) イメージ戦略における受入体制の整備

2 川内川を活かした新たな観光需要の創出

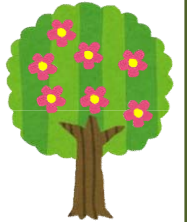
- (1) 周辺自治体、団体との連携による広域観光交流圏の構築

3 包括的支援体制の構築による移住・定住の促進

- (1) ワンストップサービスによる支援体制の構築
- (2) 移住・定住希望者に対する包括的な生活支援の実施

4 地理的優位性を活かした新たな交流・定住圏の構築

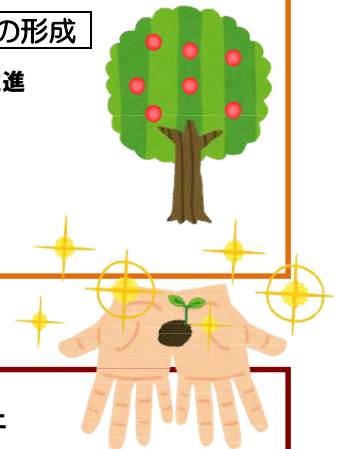
- (1) 北薩地域におけるベッドタウン化の推進
- (2) 地域の強みを活かした交流促進



IV こころ豊かな成熟した「さつま町」で学び、暮らす

1 安心して暮らせる地域づくりの充実と小さな拠点の形成

- (1) 健康寿命の延伸に向けた地域で支える体制づくりの推進
- (2) 住民参画による地域づくり活動の支援
- (3) 地域間のネットワークの構築
- (4) 知的風土の醸成に向けた地域の担い手の育成



Ⅶ 成果指標

基準値 (H26)

目標値 (H31)

Ⅰ 若い世代が芽吹く「さつま町」で産み、育てる

- 1 出会いから結婚・出産までの応援システムの構築
- 2 オールさつまで取り組む子育て支援



合計特殊出生率

1.78



1.89

子育て環境の町民満足度

31.4%



50.0%

Ⅱ 地域の幹（みき）となる産業を育む「さつま町」で働く

- 1 「さつま」の農業ビジネスプロジェクト
- 2 豊富な「竹」資源を活用した産業の活性化
- 3 ものづくりをはじめとする商工業の活性化



新規雇用者数

—



累計310人

Ⅲ 人々がふれあい、にぎわい、観光交流の花咲く「さつま町」に住む

- 1 イメージ戦略の実施による観光ブランド化の推進
- 2 川内川を活かした新たな観光需要の創出
- 3 包括的支援体制の構築による移住・定住の促進
- 4 地理的優位性を活かした新たな交流・定住圏の構築



交流人口

128万人



200万人

社会増減人口

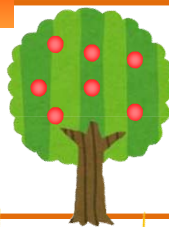
▲101人



▲50人

Ⅳ ころころ豊かな成熟した「さつま町」で学び、暮らす

- 1 安心して暮らせる地域づくりの充実と小さな拠点の形成



地域コミュニティの町民満足度

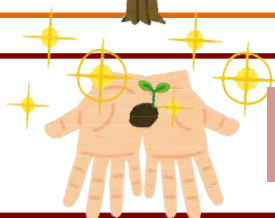
33.5%



50.0%

Ⅴ 未来へはばたく「さつま町」を創る

- 1 総合戦略の推進による魅力あるまちの継承



総合戦略の施策実施率

—



100%

I 若い世代が芽吹く「さつま町」で産み、育てる

結婚・出産・子育てのしやすい環境を自治体だけではなく、企業や住民など地域全体で支えていく仕組みづくりなどを行うことで、若い世代が安心して生活ができるよう「オールさつま」で取り組み、子育てを支援します。



出逢いから結婚・出産までの応援システムの構築

オールさつまで取り組む子育て支援





1

出逢いから結婚・出産までの応援システムの構築

(1) 地域・企業・事業者間での出逢いの場の創出

概要・目的

企業や各種団体、婚活サポーター等と協力し、異業種間交流を推進することで、気軽な出会いの場を提供するイベントを開催するなど、出会いが“運命の出逢い”につながる機会づくりをサポートします。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H26)	目標値(H31)
イベント開催数	3件	10件
結婚成立案件	—	累計15件

実施事業

実施事業名
○企業や各種団体との連携による交流から出逢いへの支援【拡充】 企業間での異業種交流や各種団体等で取り組む交流イベントなど、出逢いにつながる活動を支援します。
○婚活支援事業【新規】 婚活サポーターを設置し個々の出逢いの場を創出するとともに、婚活サポーターと協力し、企業や各種団体との連携を図りながら、婚活を支援します。

(2) いのちを育む教育と産前・産後ケアの体制づくり

概要・目的

若い世代へ、いのちの大切さや子供を育てる喜び等を教育することによって、子育てに対する関心を高めるとともに、産前・産後ケアの充実を図ることによって、子育てしやすい環境づくりを行います。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
実施学校数	6校	10校 (全小中学校)
産後ケア施設数	—	2か所

実施事業

実施事業名
○いのちを育む授業【拡充】 将来の母親・父親になる児童・生徒に対するいのちを育む教育や、保護者を対象にした育児に関するフォーラムなどを開催し、町が子育てを応援します。
○産後ケア事業【新規】 産後の母親に対して産科病院または助産所の施設等を利用し、宿泊型のサービスを提供する体制を整え、出産に関しての不安を解消し、安心して育児ができるように支援します。

2

オールさつまで取り組む子育て支援



(1) 子育て世代を応援する切れ目のない支援サービス

概要・目的

保育事業の充実や保育料の助成事業を実施するとともに、子育てに対する相談体制等を強化することにより、子育て世代への切れ目のない支援を行い、子育てに追い風を吹かせます。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
放課後児童クラブ設置数	4か所	9か所
子育て世代包括支援センター等の設置	—	1か所

実施事業

実施事業名
○放課後児童クラブの充実【拡充】 放課後児童クラブを充実させることにより、学校・関係機関・家庭が連携して、子育てに取り組めます。
○保育料助成事業【拡充】 保育料の助成を行うことで、安心して子育てができるよう、子育て世帯の経済的負担を軽減します。
○さつま子育て応援事業【新規】 子育て支援コーディネーター等による情報提供・相談・助言を行える体制を整えるとともに、子育て世代包括支援センター等を設置し、妊娠・出産・子育てへの切れ目のない支援を実施します。

(2) オールさつまで子供を育てる環境づくり

概要・目的

世代間の交流や町の伝統や文化を伝える「さつま学」を推進するとともに、薩摩中央高等学校への就学支援など“さつま町で学ぶ”環境を構築することで、郷土に誇りを持ち、志の高い子供達を育てます。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
参加大学生・児童生徒数	—	50人
薩摩中央高等学校入学者数	94人 (H27)	140人 (H32)

実施事業

実施事業名
○「さつまっ子」チャレンジ教育事業【新規】 夏休み期間等に本町出身の大学生等が帰省し、児童生徒が教育を通して先輩との交流をすることにより、お互いに成長するきっかけを作ります。
○薩摩中央高等学校振興対策事業【新規】 薩摩中央高等学校の保護者の負担を軽減するなど就学支援をすることで、高校の振興及びイメージアップを図ります。
○「さつま学」の推進事業【新規】 自然・産業・文化・歴史文化等を活かした「さつま学」を推進し、郷土に誇りを持ち、志の高い子供を育てます。

Ⅱ 地域の幹(みき)となる産業を育む「さつま町」で働く

魅力ある地域資源を糧として、農林畜産業を中心に町の基幹産業を育成するとともに、商工業による6次産業化など幹から新たな産業が生まれ、枝葉のように生い茂るよう、地域全体で町の産業を強く太く育てます。



「さつま」の農業ビジネスプロジェクト

地産地消の推進と新たなビジネスの展開

- むらの食材を活かした「農家レストラン」の展開
- 物産館の機能強化と相互連携による販売促進

ものづくりをはじめとする 商工業の活性化

地域性・独自性に長けた魅力ある
商業の振興

- 商店街活性化イベント支援事業
- 空き店舗利活用への支援
- 高校生・女性団体等による
チャレンジショップの実施
- プレミアム商品券発行事業
- 商工会スタンプ事業等への支援
- 商店街活性化連絡会(仮称)の設立

ものづくり関連企業の誘致、集積による
産業基盤強化及び魅力向上

- 企業立地促進事業
- 食品関連産業基礎調査
- 企業等の連携強化による活動の促進



まちぐるみによる6次産業化の促進

- 農産物加工、流通、販売等の支援
- 教育機関等との連携による機能性商品など新商品の開発

「薩摩のさつま」ブランド戦略の積極的な展開

- 企業ネットワークを活用した販路開拓
- 広域連携による販売戦略の支援

豊富な「竹」資源を 活用した産業の活性化

竹林整備による安定供給体制の構築

- 竹林整備支援事業
- 竹林所有者と竹林利用希望者とのマッチング推進

需要拡大に向けた流通体制の構築

- 多面的な「竹」資源の高機能活用の促進
- 教育機関等との連携による竹の多様な活用とイメージアップ



1

「さつま」の農業ビジネスプロジェクト

(1) 地産地消の推進と新たなビジネスの展開

概要・目的

地産地消の推進に向け、物産館の機能を強化するとともに、空き家や空き校舎等を活用した新たなビジネスの展開を図ります。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
取組団体数	—	2 団体
物産館の販売額	475百万円	525百万円

実施事業

実施事業名
○むらの食材を活かした「農家レストラン」の展開【新規】 加工グループ等を主体に、空き家や空き校舎等を活用し、町内はもとより観光客等に対し地元農産物を使用した食事や惣菜等の提供を行う取組を支援します。
○物産館の機能強化と相互連携による販売促進【拡充】 町内全ての物産館を地元農産物や特産品の情報発信の拠点施設として位置づけ、物産館のネットワークを構築し、相互連携・協力体制による販売促進を図ります。

(2) まちぐるみによる6次産業化の促進

概要・目的

農産物加工施設の整備や販路開拓に向けた事業支援、教育機関等と連携した研究・開発の推進など、まちぐるみで6次産業化を促進します。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
新商品開発数	—	累計7件

実施事業

実施事業名
○農産物加工、流通、販売等の支援【拡充】 農産物に付加価値を高めるため、農産物加工施設の整備を図るとともに、消費者ニーズに対応した加工品の試作、デザイン、パッケージ、ネット販売など販路開拓につながる取組を支援します。
○教育機関等との連携による機能性商品など新商品の開発【新規】 高校や大学など高等教育機関や研究機関との共同研究による機能性商品などの新商品の開発や、地元メディアなどと連携した商品開発を支援します。

(3) 「薩摩のさつま」ブランド戦略の積極的な展開

概要・目的

ブランド戦略に関わる、あらゆるプレーヤーと協力し「薩摩のさつま」ブランドの積極的なプロモーション活動を展開します。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
連携・協力企業数	—	15社
JA 管内のネット・カタログ販売額	15百万円 (H27 見込み)	基準値の3倍

実施事業

実施事業名
○企業ネットワークを活用した販路開拓【新規】 町内企業等の県内外のネットワークを活用して、関連企業等に対し、特産品のPRを行い、販路開拓を支援します。
○広域連携による販売戦略の支援【拡充】 農産物を取り扱う農協を核とし、近隣自治体との連携により、インターネットやカタログ販売による「薩摩のさつま」ブランドの販売戦略を推進します。

(4) 地域農業人材の確保・育成

概要・目的

地域農業の担い手の減少を食い止めるために、地元畜産農家や意欲ある農業者と連携して、就農支援のための各種研修制度の構築を目指します。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
新規就農者数	—	累計25人
「さつま牛」生産担い手研修支援制度における研修生受入数	—	累計3人

実施事業

実施事業名
○「さつま牛」生産担い手研修支援制度の構築【新規】 就農希望者の地元大規模畜産農家での研修支援制度を構築することで、「さつま牛」生産担い手の確保に努めます。
○担い手育成の里親制度の構築【新規】 意欲ある担い手が、農業者「里親」のもとで、農業経営を開始するまでの実践的な研修を受けられる制度を構築し、新規の担い手の確保及び就農を支援します。

2

豊富な「竹」資源を活用した産業の活性化



(1) 竹林整備による安定供給体制の構築

概要・目的

パルプ用竹材の買取支援や情報発信の強化による竹林所有者と利用者のマッチングを推進することで、竹林の整備を促進し、安定供給に向けた供給体制の構築を図ります。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
竹材出荷量	5,308t	5,600t
たけのこ生産量	218t	220t

実施事業

実施事業名
○竹林整備支援事業【継続】 パルプ用竹材等の買取単価への上乗せ支援を行うことで、竹林の活用を促し、たけのこ生産等の拡大を図ります。
○竹林所有者と竹林利用希望者とのマッチング推進【新規】 生産者の高齢化に伴い生産量が減少傾向にあるため、竹林所有者の情報をデータベース化し、竹林利用希望者と所有者とのマッチングを行い、竹林の整備を促進します。

(2) 需要拡大に向けた流通体制の構築

概要・目的

さつま町の魅力ある地域資源である「竹」を最大限活用するために、新たな素材としての活用を促進するとともに、竹製品の芸術性を高めるなど「竹」のイメージアップ及び「竹の町」のイメージ確立を図ります。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
新規販路数	—	2件
公共施設等における竹資源の活用件数	—	累計3件

実施事業

実施事業名
○多面的な「竹」資源の高機能活用の促進【新規】 日本有数の面積を誇る「竹」資源をバックに「薩摩川内市竹バイオマス産業都市協議会」との広域連携を図り、竹利用分野だけでなく、新たな素材としての活用を促進します。
○教育機関等との連携による竹の多様な活用とイメージアップ【新規】 教育機関等と連携し、主要な街並みや公共施設等のリノベーションにおける竹の活用により「竹の町」としてのイメージの定着化を図るとともに、竹製品に芸術性を持たせるなどの取組による「竹」資源のイメージアップを推進します。

3

ものづくりをはじめとする商工業の活性化



(1) ものづくり関連企業の誘致、集積による産業基盤強化及び魅力向上

概要・目的

立地企業に対する助成制度の拡充や企業誘致に係る基礎調査を実施するとともに、金融機関のネットワークを活用し、情報収集やPR活動を推進することにより、産業基盤の強化を図ります。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
企業立地促進事業による新規雇用者数	—	累計 50 人

実施事業

実施事業名
○企業立地促進事業【拡充】 地元雇用を促進するため、町内に事業所を新設・増設等をしようとする事業者に対して、土地、建物及び設備の取得に要した経費を助成し、地元雇用への事業内容を拡充します。
○食品関連産業基礎調査【新規】 地元農産物の販路拡大を図るため、食品関連産業の誘致に取り組むとともに、企業誘致を行うために必要な基礎調査を行います。
○企業等の連携強化による活動の促進【新規】 町内企業等のネットワークを活用するとともに、企業振興のための組織づくりを支援し、情報収集や企業活動の促進を図ります。

(2) 地域性・独自性に長けた魅力ある商業の振興

概要・目的

地元商店街を魅力あるものにするために、各種イベントや空き店舗活用等への支援を実施するとともに、商店街活性化連絡会（仮称）の設立を検討します。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
空き店舗利活用件数	—	累計15件
チャレンジショップ実施店舗数	—	2店舗

実施事業

実施事業名
○商店街活性化イベント支援事業【新規】 商店街の通り会で行っている各種イベントの活性化を図るため、個店のもつ独自商品や人材に視点を置きストーリー性を付与することで、消費者の関心を引き起こして「歩きたくなる通り」へと磨きあげていきます。
○空き店舗利活用への支援【新規】 空き店舗の解消及び新規創業者や規模拡大を図ろうとする中小事業者に対し、空き店舗の賃貸借契約による家賃等を支援します。
○高校生・女性団体等によるチャレンジショップの実施【新規】 空き店舗を活用し、薩摩中央高等学校、女性団体、加工グループ等によるチャレンジショップを開催し、マスコミと連携したPRを行うことで、商店街の活性化とともに、キャリア教育の充実を図ります。
○プレミアム商品券発行事業【拡充】 町内での消費の喚起と売上向上を図るため、商工会が行うプレミアム商品券の発行事業に対して支援します。
○商工会スタンプ事業等への支援【新規】 旧町単位で行っていた3つのスタンプ事業の見直し等を行い、町内統一したスタンプ事業や歳末感謝セール事業等を創設し、消費者の利便性や商店等の売上の向上を図ります。
○商店街活性化連絡会（仮称）の設立【新規】 既存の商店街まちづくり会議の対象区域を拡大し、商店街の活性化に向けた戦略事業を推進するため、外部の人材を核とした新たな組織づくりを行います。

(3) 創業支援及び担い手の確保

概要・目的

新規創業をめざす方への支援活動や助成事業を実施するとともに、高校生の地元就職率の向上を図るために、地元企業と連携したキャリア教育を推進します。

具体的な目標

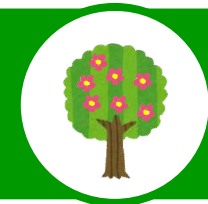
重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
高等学校卒業生の町内就職者数	31人	41人

実施事業

実施事業名
○創業支援事業【新規】 新規創業をめざす方に対し、関係機関・団体との連携を図りながら、商工会による開業準備の進め方や事業計画の作成などの創業支援を行います。
○商工業制度資金利子補給助成金交付事業【新規】 商工業者の経営安定のため制度資金借入者に対し、利子補給の助成を行います。
○高校と企業と連携したキャリア教育実践活動の推進【新規】 薩摩中央高等学校と連携し、町内のものづくり企業等への就職先として選択してもらうため、企業を訪問し会社の概要や経営を知る機会をつくとともに、経営者等による特別講座を実施します。

Ⅲ 人々がふれあい、にぎわい、観光交流の花咲く「さつま町」に住む

観光や移住の推進において、イメージ戦略の実施などにより、人を惹きつける「花」のように、町の魅力を磨き効果的に発信することで、交流人口や定住人口の増加による町のにぎわいを創出します。



イメージ戦略の 実施による 観光ブランド化の推進

「美」をキーワードとする
イメージ戦略の実施

- ビューティーツーリズム事業
- バスラッピング事業
- ひっ飛ばさつま！
プロジェクト事業



イメージ戦略における
受入体制の整備

- 旅館業等施設整備事業
- さつまの美肌温泉まるごと活用
促進事業
- 鉄道記念館の整備構想の策定
- 観光特産品協会の
法人化への支援



観光ブランド化の推進

川内川を活かした 新たな観光需要の 創出

周辺自治体、
団体との連携による
広域観光交流圏の構築

- 県立北薩広域公園の
整備促進と利活用
- 北薩摩地域
広域観光連携の推進
- 奥薩摩広域観光圏の構築
- 奥薩摩・大鶴湖周辺施設整備
計画策定事業
- かわまちづくりの推進による
川内川の利用促進



新たな観光需要の創出

包括的支援体制の 構築による 移住・定住の促進

ワンストップサービス
による支援体制の構築

- ハローワークとの連携による
ワンストップサービスの強化
- ふるさと回帰支援センター等
による情報発信
の強化



移住・定住希望者に対する
包括的な生活支援の実施

- 空き家情報バンクの
登録・活用の促進
- 住宅リフォーム事業
- さつまふるさと箱の発信



移住・定住の促進

地理的優位性を 活かした新たな 交流・定住圏の構築

北薩地域における
ベッドタウン化の推進

- 周辺地域等移住定住促進
補助制度の見直し
- お試し住宅利用制度
- 若者向け住宅の整備



地域の強みを活かした
交流促進

- コンベンションタウン
推進事業
- 地域元気再生事業
(交流人口型)

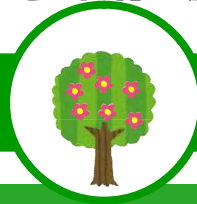


新たな交流・定住圏の構築



交流・定住人口増加による
町の活性化





1

イメージ戦略の実施による観光ブランド化の推進

(1) 「美」をキーワードとするイメージ戦略の実施

概要・目的

さつま町の魅力ある地域資源である「温泉」や「ホテル」等を活用して、「美」をキーワードとした商品の開発等に取り組むことにより、イメージ戦略の実施による観光ブランド化の推進を図ります。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
温泉入込客数	428千人	500千人
旅館等宿泊者数	63千人	80千人

実施事業

実施事業名
○ビューティーツーリズム事業【新規】 地元メディア等と連携し、「美」をキーワードとしたさつま町の魅力の情報発信、地域資源を活用した商品開発などを行うことで、町の観光全体の底上げを図ります。
○バスラッピング事業【新規】 町のマイクロバスを「走る広告塔」として位置づけ、「美」をイメージするラッピングをバスに装うことで、町のイメージアップを図ります。
○ひっ翔べさつま！プロジェクト事業【新規】 航空機体の活用プロジェクトにより、空港・航空機利用者を中心にプロモーションを展開します。併せて、さつま町の“よかところ”“よかもん”に、ストーリー性を持たせたPRを推進します。

(2) イメージ戦略における受入体制の整備

概要・目的

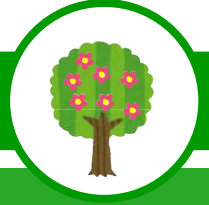
旅館等の施設整備への支援や鉄道記念館の整備構想の策定、温泉利用券の設定などイメージ戦略における受入体制の整備を図ります。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
温泉入込客数	428千人	500千人
旅館等宿泊者数	63千人	80千人

実施事業

実施事業名
○旅館業等施設整備事業【継続】 旅館等の施設整備への支援を継続し、観光客などの受入体制の充実を図ります。
○さつまの美肌温泉まるごと活用促進事業【新規】 町内の温泉巡りが気軽にできる、温泉ガイドブックの作成やお得な一日利用券などにより、町内温泉施設・温泉郷の連携強化や温泉の知名度アップと利用促進を図ります。
○鉄道記念館の整備構想の策定【拡充】 町の玄関口としてのバスターミナル機能強化や観光拠点施設としての再整備など基本的な方向性を示します。
○観光特産品協会の法人化への支援【新規】 法人化への取組を支援し、観光事業の推進や特産品の販売促進など、事業のけん引役として運営体制の見直し、強化を図ります。



2

川内川を活かした新たな観光需要の創出

(1) 周辺自治体、団体との連携による広域観光交流圏の構築

概要・目的

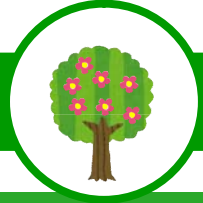
北薩摩や奥薩摩、川内川といった豊かな自然を最大限活用するために、周辺自治体や各種団体と連携し、広域観光交流圏の構築を推進し、交流人口の増加を目指します。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H26)	目標値(H31)
広域連携取組件数	7件	10件

実施事業

実施事業名
○県立北薩広域公園の整備促進と利活用【拡充】 地域の特徴である川内川、竹林などの自然環境を活かし、芸術性や文化性を備えた北薩広域公園の整備を促進するとともに、ちくりん公園及びかぐや姫グラウンドを再整備することで、周辺の一体的な利活用と魅力アップを図ります。
○北薩摩地域広域観光連携の推進【継続】 交流人口の拡大と地域経済の活性化を図るため、北薩摩地域や周辺自治体と連携して、広域観光圏のルート化を展開します。
○奥薩摩広域観光圏の構築【継続】 鶴田ダムや大鶴湖、曾木の滝の周辺地域において、国、県、関係市町が連携して、地域の優れた資源を活かした自然体感・交流拠点の整備を図り、個性的で魅力にあふれた地域づくりを進めます。
○奥薩摩・大鶴湖周辺施設整備計画策定事業【新規】 鶴田ダムを中心とした整備計画を策定し、自然の恵みである川内川を活用することで、観光の魅力を掘り起こすとともに、その魅力を効果的に発信し、交流人口の増加を図ります。
○かわまちづくりの推進による川内川の利用促進【継続】 かわまちづくり計画に基づくホテル舟や屋形舟など川内川の水辺の利活用のための施設整備等を実施します。



3

包括的支援体制の構築による移住・定住の促進

(1) ワンストップサービスによる支援体制の構築

概要・目的

移住・定住を希望する方が必要な情報に容易にアクセスできるように、ハローワークと連携したワンストップサービスの強化やふるさと回帰支援センター等を活用した情報発信の強化を行います。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
ハローワークとの連携数	—	10件
セミナー等相談件数	10件	25件

実施事業

実施事業名
○ハローワークとの連携によるワンストップサービスの強化【拡充】 ハローワークと連携し、移住・定住の情報提供等におけるワンストップサービス機能を強化します。
○ふるさと回帰支援センター等による情報発信の強化【新規】 移住者向け PR 動画を作成するとともに、ふるさと回帰支援センターや移住・交流ガーデン等を活用し、移住者への情報発信を強化します。

(2) 移住・定住希望者に対する包括的な生活支援の実施

概要・目的

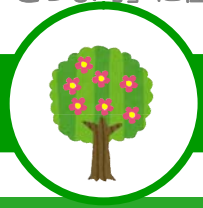
空き家を活用し、移住・定住環境の整備を推進するとともに、若い出郷者への情報発信を強化することにより、Uターンの促進を図ります。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
登録件数	4件	累計50件
住宅リフォーム活用件数	50件	100件

実施事業

実施事業名
○空き家情報バンクの登録・活用の促進【拡充】 空き家情報バンクへの登録を促し、空き家のデータベース化を進めることで、空き家の有効活用を推進し、定住促進及び地域の活性化を図ります。
○住宅リフォーム事業【拡充】 空き家を含む既存住宅の活用を促すとともに、金融機関との連携を図ることで、移住者を含め町民の快適な住まいづくりを支援します。
○さつまふるさと箱の発信【新規】 町外で暮らす大学生など若い出郷者への親元からの物品の仕送りに対し、専用の宅配箱を制作し、その送料等を町が負担するとともに、町の情報誌等を同封することで、ふるさと情報の発信によるUターン促進を図ります。



4 地理的優位性を活かした新たな交流・定住圏の構築

(1) 北薩地域におけるベッドタウン化の推進

概要・目的 交通の要衝であり、周辺に多くの通勤可能地域がある地理的利点を活用し、定住促進補助制度の拡充や公共施設を活用した住宅整備を実施することで、北薩地域におけるベッドタウン化を推進します。

具体的な目標	重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
	周辺地域等移住定住促進補助活用件数		累計 22 件

実施事業	実施事業名
	○周辺地域等移住定住促進補助制度の見直し【拡充】 町外からの転入及び中心部から周辺部への移住定住を促進するため、住宅建築・購入、リフォームの助成に加え、開発公社住宅団地の購入助成を新設します。
	○お試し住宅利用制度【新規】 移住を希望している人に、さつま町での暮らしを体験してもらうため、公共施設等を活用した住宅を整備します。
	○若者向け住宅の整備【新規】 若者世帯の経済的負担を軽減するなど、若い世代がさつま町に居住してもらうため、若者のニーズに合った住宅を整備します。

(2) 地域の強みを活かした交流促進

概要・目的

スポーツ合宿等の受入体制の充実や地域の特色を活かしたイベント等を支援することで、交流人口の増加を図ります。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
コンベンション利用者数	12千人	15千人
地域イベント交流人口	18千人	25千人

実施事業

実施事業名
○コンベンションタウン推進事業【拡充】 プロスポーツキャンプの誘致など地域の公共施設を活用したスポーツ合宿の受入体制を充実し、交流人口の増加を促進します。
○地域元気再生事業（交流人口型）【拡充】 町内20地区の公民館が取り組む地域の特色を活かしたイベント等の支援を行うことで、交流人口の拡大及び地域の活性化を図ります。

IV ころ豊かな成熟した「さつま町」で学び、暮らす

生涯にわたり学びを深めることで、みんなが自分らしい暮らしができるように、地域全体で思いやり、支え合う体制づくりを推進するとともに、住民参画による地域づくりの充実と地域間のネットワークの構築による小さな拠点の形成を推進します。



安心して暮らせる地域づくりの充実と小さな拠点の形成

健康寿命の延伸に向けた 地域で支える 体制づくりの推進

- 地域生活支援体制づくり事業
- 高齢者ふれあいきいきサロン事業

地域で支える
体制づくりの推進

住民参画による 地域づくり活動の支援

- 「地域づくり活性化計画」の実現に向けた活動支援
- 「地域元気再生事業」(提案公募型)

地域の活性化の
活動支援

ころ豊かな成熟した 「さつま町」

地域間の
ネットワークの充実

地域の担い手の育成

地域間の ネットワークの構築

- 利便性の高い地域公共交通体系の確立
- 持続可能な地域づくりに関する調査

知的風土の醸成に向けた 地域の担い手の育成

- 総合戦略コーディネーター派遣事業
- 女性の活躍に対する支援
- 地域づくりにつながる生涯学習活動の支援



1 安心して暮らせる地域づくりの充実と小さな拠点の形成

(1) 健康寿命の延伸に向けた地域で支える体制づくりの推進

概要・目的 高齢者が安心して暮らせるよう、地域で支える体制づくりを推進するとともに、健康づくり等を目的としたサロン事業の充実を図ります。

具体的な目標	重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
	地域包括ケア体制づくりモデル団体	—	38団体
	サロン設置数 (すべての公民会に最低1団体)	103団体	134団体

実施事業	実施事業名
	<p>○地域生活支援体制づくり事業【新規】</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるよう、地域全体で見守り、支える体制づくりを推進するため、「ころばん体操」の普及を図り、元気な高齢者の育成に努めながら、地域に必要な支援は、地域の元気高齢者で支えるインフォーマルサービスの充実を支援します。</p>
	<p>○高齢者ふれあいいいききサロン事業【拡充】</p> <p>高齢者の生きがいや健康づくり、介護予防などの目的と集いの場でもあるサロンの実施回数を増やし、また、未組織の公民会等については、組織化を推進しながら充実を図ります。</p>

(2) 住民参画による地域づくり活動の支援

概要・目的

住民参画による地域づくり活動や活性化計画の実現に向けて、地域おこし協力隊等を活用した支援を行います。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
地域づくり活性化計画の進捗率	—	70%以上
事業実施団体数	7団体	10団体

実施事業

実施事業名
○「地域づくり活性化計画」の実現に向けた活動支援【拡充】 地域担当職員や地域おこし協力隊による地域づくり活性化計画の実現に向けた活動を支援します。
○「地域元気再生事業」(提案公募型)【継続】 公民会や地域のボランティア団体等が実施する地域課題の解決に向けた社会貢献や、地域活性化につながる創造的な活動を支援します。

(3) 地域間のネットワークの構築

概要・目的

充実した地域間のネットワークの構築に向けて、利便性の高い公共交通体系の確立を図るとともに、地域コミュニティの現状分析を行い、持続可能な地域づくりに向けた方向性等を検討、提案します。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
地域公共交通の町民満足度	25.7%	50%

実施事業

実施事業名
○利便性の高い地域公共交通体系の確立【継続】 交通ニーズを把握し、まちづくり施策と連携した利用しやすい交通体系の確立を図ります。
○持続可能な地域づくりに関する調査【新規】 買い物、通院など普段の生活が賄えるような小さな拠点づくり、地域コミュニティの現状を把握・分析し、地域づくりの方向性やさつま町に適した地域活動、組織体制を提案します。

(4) 知的風土の醸成に向けた地域の担い手の育成

概要・目的

地域の活性化に向けて、これまで培われてきた“ふるさとへの思い”を更に成長させるため、生涯学習の推進や女性の活躍を支援するとともに、地域活動を通して、次世代を担う地域のリーダーを育成します。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
総合戦略コーディネーター派遣地区数	—	3か所
委員会等の女性登用比率	15%	20%

実施事業

実施事業名
○総合戦略コーディネーター派遣事業【新規】 モデルとなる公民館にコーディネーターを派遣し、地域課題の改善策、さらに次世代を担う地域リーダーの育成に努めます。
○女性の活躍に対する支援【継続】 男女いきいき幸せプランを見直し、地域における女性の活躍を支援します。
○地域づくりにつながる生涯学習活動の支援【継続】 幅広い分野のメニューの中から、公民館・公民会・学校・サロン・各種サークル等において、より身近な形での講座を実施することで、地域づくりにつながる生涯学習活動を支援します。



1

総合戦略の推進による魅力あるまちの継承

(1)

総合戦略をコーディネートし、事業の有機的な連携を図ることによる戦略の実効性の向上

概要・目的

総合戦略コーディネーターを設置し、各事業の関係者の連携、情報の共有を推進することで、事業の縦横断的な広がりを促し、事業を効果的かつ効率的に実施していくことで、戦略の実効性を高めます。

(2)

資源の効率的な運用に配慮するとともに、民間活力の導入を積極的に推進することによる事業の継続性の向上

概要・目的

総合戦略コーディネーターを設置し、地域の「ヒト」・「モノ」・「カネ」の資源の効率的な運用に配慮するとともに、官と民の間に立ち、民間活力の積極的な導入による「オールさつま」での協働を促すことで、資源を補い、また、資源を拡充し、事業の継続性を高めます。

(3)

戦略を推進するなかで、事業の担い手、地域のリーダーを育成することによる次世代に向けた人財の確保

概要・目的

総合戦略コーディネーターを設置し、民間主導による事業の実施、また、住民自治による地域づくりなど「オールさつま」による推進体制の構築を促すなかで、事業の担い手や地域のリーダーの積極的な育成に努め、次世代に向けた「新たな公共」の土台を築く“人財”を確保します。

具体的な目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値 (H26)	目標値 (H31)
総合戦略の施策実施率	—	100%

実施事業

実施事業名
○さつま町総合戦略策定事業【新規】 本戦略「さつま町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。
○総合戦略コーディネーターの設置【新規】 総合戦略の推進をコーディネートする「総合戦略コーディネーター」を設置します。

参考 総合戦略コーディネーターについて

コーディネーターの役割

事業関係者のマッチング

⇒ 事業関係者のマッチングにより推進体制を強化する。
⇒ 事業と事業をつなぎ、相乗効果による事業展開を図る。

事業内容への助言・提案

⇒ 関係者へのヒアリング等に基づき、事業内容へ助言・提案し、事業の具体化を行う。

会議等でのファシリテーター

⇒ ファシリテーターとして関係者の戦略理解を深める。
⇒ アイデアの創発を促す。
⇒ 事業実施に向けた関係者の意欲醸成を図る。

コーディネーターを“モデル地域”へ派遣

人財育成

地域の担い手となる人材の育成

⇒ 事業推進・モデル地域への支援を通じて、OJTによる地域の担い手の育成を図る。

推進体制 ~ 関係者間のマッチングにより“産官学金労言の連携”を強化

例①：地元メディアとのマッチングによる情報発信機能等の強化

⇒ 地域資源の再確認・ブラッシュアップ、地元メディアによる情報発信 等

例②：教育機関とのマッチングによる担い手確保、アドバイザー機能等の強化

⇒ 高校生との協働による事業実施、大学など専門的視点からの事業検討 等

例③：観光特産品協会、温泉組合等とのマッチングによる事業の実践力強化

⇒ 事業への理解深化、連携による運営体制強化、実施に向けた意欲醸成 等

関係者の
マッチング

事業への
助言・提案

地域の
担い手

地域の
リーダー

推進体制の強化

ブランド化（ストーリー性付与）
地域資源活用アイデアの提案 等

民間活力の導入
産官学金労言の連携

事業の
担い手
確保

魅力的な
地域
資源
の活用

地域資源の
ブラッシュアップ

コーディネーター
を核とした
総合戦略の推進

事業の
有機的連携

外部の視点による活用方法
効果的な情報発信などの検討

地域資源

- 「知る人ぞ、知る」美肌湯郷
- 「ほたるの里」と呼ばれる 清流
- 優雅な刻を過ごす ホタル舟
- 清流に育まれた 美味・美食
- 切子・和紙など 美しい工芸品
- 竹林が生い茂る かぐや姫の里

コーディネーターの目的

- 1：事業の有機的な連携を図ることによる戦略の実効性の向上
⇒ 事業関係者間の連携、情報共有を推進することで、事業の縦横断的な拡がりを促し、事業を効果的かつ効率的に実施していくことで、事業の実行性を高める。
- 2：資源の効率的な運用に配慮するとともに、民間活力の導入を積極的に推進することによる事業の継続性の向上
⇒ 資源（ヒト・モノ・カネ）の効率的な運用に配慮するとともに、官と民の間に立ち、民間活力の積極的な導入による「オールさつま」での協働を促すことで、資源を補い、また、拡充し、事業の継続性を高める。
- 3：戦略を推進するなかで、事業の担い手、地域のリーダーを育成することによる次世代に向けた人財の確保
⇒ 事業の担い手や地域のリーダーを育成し、次世代に向けた「人財」を確保する。

期待される効果 ※一例

地元メディアとのマッチングによる“まちの魅力”の情報発信の増加

観光産業の振興

地元メディア、観光特産品協会とのマッチングによる“観光客向け”地元産品を活用した新商品の開発

6次産業化の推進

薩摩中央高校生とのマッチングによる商店街での新商品販売

商店街の活性化
キャリア教育の充実

.....